

令和4年6月29日（水曜日）

厚生委員会

第3委員会室

出席議員

有馬剛朗、石見和之、山崎陽介、竹尾浩司、
竹中隆一、杉本博昭、谷川真由美、大西陽介、
妻鹿幸二

開会

9時55分

市民局

9時55分

職員紹介

事業概要説明

質問

10時31分

（質問）

ある自治会から、防犯灯をLED照明に取り替える際に補助金を申請する場合、指定の募集期間内に応募するよう案内されたかと相談を受けた。防犯灯の電球が切れたタイミングによっては、防犯灯が消えたままの状態が1年間続いてしまうと思うがどうか。

（答弁）

防犯灯に限らず、補助の申請に当たっては募集時期を定めて希望を集約し、一括して処理している。しかし、防犯灯が消えたままの状態はよくないので、防犯灯の運用について柔軟に対応できないか検討したい。

（質問）

老人クラブ活動事業費について、会員数150人以上の特大規模クラブは1年当たり12万円が助成されるが、150人以上であれば一律に12万円の助成となるため、会員数が多い老人クラブにとっては助成額が少ないように思う。人数きぼによってより細かく分類して助成額を増やすことはできないのか。

（答弁）

会員数が多い老人クラブもあると思うが、現在の老人クラブの状況を考慮した上で助成額を設定している。現時点でさらに細かな人数規模に分類することは難しいが、今後、老人クラブに限らず、様々な団体の在り方について意見を聞き取りながら、市として検討していきたい。

（要望）

特大規模クラブについては人数に応じた助成額を設定するなど、クラブが活動しやすくなるよう検討してもらいたい。

（質問）

消費生活センターの高校出前講座の開催について、新型コロナウイルス流行の影響はあるのか。

（答弁）

市立高校については学校協力の下、学校に出向いて講座を行っている。新型コロナウイルスの影響はあまりない。

（質問）

直接学校に行ったということか。

（答弁）

そうである。

（要望）

引き続き取り組んでもらいたい。

（質問）

令和4年度の一般会計及び国民健康保険事業特別会計の歳入・歳出において、多くの項目が減額となっているがなぜなのか。

（答弁）

一般会計の歳入では、マイナンバー関連事業について市が国庫支出金を受け、その負担割合に応じて実務を行う地方公共団体情報システム機構に国庫支出金を支払っていたものが、国から同機構に直接国庫支出金を支出することとなったため、本市の国庫支出金が大きく減額している。

また、令和3年度は花の北サービスセンター、網干支所、東出張所の大規模改修があったが、令和4年度は大規模改修の予定がないため、市債が大きく減額している。

歳出における教育費については、公民館において令和3年度に大規模改修を行ったものの、令和4年度は実施予定がないため大きく減少したものである。

国民健康保険事業特別会計では、被保険者数の減少や医療費の減少により減額となっているが、令和4年度から団塊世代の被保険者が後期高齢者となるため、今後は後期高齢者医療保険事業特別会計の歳入・歳出が増額するものと考えている。

（質問）

令和4年度よりパートナーシップ制度の運用を開始したが、現在の当該制度の利用状況を説明してもらいたい。

また、当該事業に係る予算はどのようなことに利用

されているのか。

(答弁)

これまでに6組の利用があった。当該制度を待ち望んでいた人が利用したものと認識している。

今後、市民への周知と関係各所に理解を深めてもらうことが重要であると認識しているため、周知・啓発のために予算を活用していきたいと考えている。

(質問)

男性のための電話相談について、利用件数と市民への周知方法について説明してもらいたい。

(答弁)

令和4年度は1か月に1回実施しており、現在までに7件の相談を受けた。

令和3年度は16件、令和2年度は11件、令和元年度は10件である。ただし、令和2年度までは2か月に1回の実施、令和3年度は1か月に1回実施している。

周知については、ホームページに掲載しているほか、広報ひめじへの掲載、講演会等でのチラシの配布などを行っている。

(質問)

自衛官の募集に関して、本市は自衛隊と協定を締結して高校や大学の卒業生の情報を提供しているが、現在の協定の期限はいつまでなのか。

(答弁)

3年間の協定であり、令和4年で2年目である。個人情報取扱いについて厳重に行うことを協定書に記載しており、他の用途に使えないようにした上で必要な情報を提供している。

(質問)

国は国民健康保険証を廃止してマイナンバーカードを保険証として利用しようと考えているが、本市のマイナンバーカード取得率は50%程度である。市内の病院のうち、マイナンバーカードを保険証として利用できる施設は何割なのか。

また、国民健康保険証は廃止する予定であるのか。

(答弁)

本市のマイナンバーカードの取得率は伸び悩んでいるが、国が健康保険証からマイナンバーカードへの置き換えを検討していることは認識している。今後どのように取り扱うことになるのかは不明であるが、国

の動向を注視したい。実際に保険証をマイナンバーカードに置き換えることが決定されたということではないと認識している。

なお、市内の病院のうちマイナンバーカードを保険証として利用できる場所は令和4年3月末時点で1割程度である。現在、マイナンバーカードを利用できるよう普及を進めているところである。

(質問)

現在、本市では国民健康保険料を滞納していると、更新の際に保険証を発行せず、窓口へ相談に来るよう対応しているが、マイナンバーカードを保険証として利用することになれば、どのように対応するのか。

(答弁)

様々な事情で保険料を納付できない人にきめ細かく対応するためにも窓口交付や納付相談は重要であると認識している。マイナンバーカードを保険証として利用することが決定したときに、どのように対応するのかということは今後の検討課題であると考えている。

(質問)

他都市で全市民の住民基本台帳の情報が入ったUSBメモリを紛失した事案があったが、本市の管理方法は万全であるのか。

(答弁)

外部の民間事業者に委託する際のルールをしっかりと取り決める必要があると考える。今回の他都市の事案を受け、総務局と連携して、個人情報の漏えいがないよう取扱いに注意するよう全庁に通知を行った。今後も、定期的に周知・啓発を行いたい。

市民局終了 10時52分

環境局 10時52分

職員紹介

事業概要説明

質問 11時16分

質問なし

環境局終了 11時17分

健康福祉局 11時17分

職員紹介

事業概要説明

質問

11時56分

(質問)

本市における新型コロナウイルス感染症の動向について説明してもらいたい。

また、本市で全国2例目となる新たな変異株が確認されたが、感染経路等判明したことがあれば説明してもらいたい。

(答弁)

全国的な傾向と変わらず、先週から増加傾向にある。兵庫県の公表データによると、10万人当たりの陽性者数は阪神地域が高く、明石市や姫路市は低い。検査件数は高止まりの状態であるが、陽性率はピーク時の50%超から10%台に下がっている。

新たな変異株であるBA.4については、他都市で確認された全国1例目の感染者は海外渡航歴があったものの、本市で確認された感染者は海外渡航歴がなかったため、市中感染ではないかと考えている。

一方、BA.5については本市であまり確認されておらず、増えているとは言えない。本年4月と比較すると、オミクロン株感染者の症状は、高齢者も含め、軽くなっている。

(質問)

発達医療センタールネス花北診療所において新規受診までの期間はどれくらいなのか。

(答弁)

電話で連絡を受けてから初診までは、脳性麻痺やダウン症などの乳児については約2か月、発達障害等の幼児については3~3.5か月で推移している。

学齢期の子どもについては、総合教育センターが窓口となって対応しており、同診療所では医療的な対応が必要な場合のみ対応している。その場合は6か月程度かかっている。

新型コロナウイルス感染症の影響により、一昨年以降、幼児の初診時の年齢が上昇する傾向にあり、幼稚園の年長クラスになって保護者から連絡があるケースが多い。

(質問)

休日・夜間急病センターでの受診について、新型コロナウイルス感染症の影響はあるのか。

(答弁)

受診控えや感染予防の意識の向上により、受診者数

が減少している。新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度の受診者数は約3万6,000人であったが、令和3年度は約1万4,000人であった。

(質問)

臨床研修医奨励金事業について、申請状況を説明してもらいたい。

(答弁)

令和4年度の県立はりま姫路総合医療センターの開院を見越して、定員を令和3年度から19人増やし、53人としている。これに対し44人の応募があったが、まだ空きがあるため二次募集を行っているところである。

(質問)

いきいき百歳体操参加者へのひめじポイントの付与について、登録者数は何人であるのか。

(答弁)

令和3年度末で470のグループが登録しており、参加者数は7,362人、延べ15万495人である。

(質問)

高齢者バス等優待乗車助成事業については75歳以上が対象者であるが、実際に当該助成制度を利用している人の割合を説明してもらいたい。

(答弁)

令和3年度末での対象者は6万5,706人で、そのうち6万565人、92.2%に優待乗車証等を交付している。

バス以外を選択した人には、利用券等を交付しているが、タクシーについては、令和2年度の10月に対象者を拡大したことにより選択する人が増えており、1,124人に約320万円を支出している。

船については663人が申請しており、410万4,000円を支出している。

鉄道については3万4,358人が申請しており、2億6,346万8,000円を支出している。

バスについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度において全く利用していない人が54%であった。

(質問)

本市には若年性認知症の家族会はあるのか。

(答弁)

市内の家族会については把握していない。当事者が家族会のある明石市や神戸市に通っているというこ

とは認識している。

(質問)

市として家族会の立ち上げを支援することは考えていないのか。

(答弁)

若年性認知症患者数や家族会のニーズを含め状況を把握する必要があると考えている。

健康福祉局終了

12時08分

閉会

12時08分